

令和6年度 第2回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

発達・子育て支援専門部会

日時：令和6年8月5日（月）

午後2時30分から

場所：宇治市役所

5階 501会議室

<次第>

- 1 開会
- 2 検討（課題に対する対応策の検討）
 - （1）専門職による園訪問支援体制について
 - （2）移行支援シートの統一化について
- 3 その他連絡事項
- 4 閉会

令和6年度第1回 発達・子育て支援専門部会

主な意見

(1) 専門職による園訪問支援体制について

1 相談方法の観点

- （申請不要の）定期巡回訪問であれば、（保護者に同意を得るほどのことではない程度の）その場で少し気になることや、全体を見ていただきながら色々なことを話合いできるような機会がほしい。また、特定の子どもに対する相談は、別途改めて依頼できる仕組みがほしい
- 就学前施設の方針を尊重し、施設の希望で月に1度の訪問や、3か月に1度の訪問など事前に登録できる制度がよい
- 申請（依頼）を受けて訪問する場合、手続をより簡素化して、迅速に訪問できる体制を構築してほしい
- 1日一緒に保育を見ていただくとともに、継続的にも見ていただけるなど、その子どものケースによって訪問の種類を選択できる制度がよい
- 保護者の同意が必要な相談では、気軽に申請できるような仕組みが必要

2 相談内容の観点

- 子どもによってそれぞれの育ちがあってその子どもの現在に至る流れがあるので、できない部分だけに焦点を当てて練習しても解決することは難しく、スモールステップ（段階的な工夫）を思いつくことが難しい
- 子どもの保育に関わる部分のアドバイスは、その子どもにあるストーリー性を理解した上で行われるべき
- 療育などの専門職だけで支援に入ると、子どもの保育の部分を置き去りにする恐れがある
- 子どもの障害の特性だけではなく、その子ども自身が持っている育ちを考慮した上で、障害の特性に沿った手立てに加え、その子どもの意欲を尊重するような支援が必要である
- 上記のような話を伺いながら、就学前施設の職員とは異なる視点を持つ専門職の方に子どもにとって最もよい方法について教えていただきたい

3 訪問する専門職の観点

- 子どもの育ちと発達の両方の視点を持っている専門職が必要
- センターの特色として、その子どもの育ちに寄り添って、スモールステップについてアドバイスできれば理想的
- 療育施設の先生に見に来ていただくことで気づきが得られやすい（就学前施設の先生が療育施設に見に行くこともとても参考になる）
- 動作に課題のある子どもには作業療法士、吃音のある子どもには言語聴覚士など、その子どもの特性に応じた職種の方の訪問が必要
- 困り感に応じた職種の方のコーディネートがセンターの役割

（２）移行支援シートの統一化について

1 保護者対応について

- 保護者とのちょっとした言葉や会話の中から、困り感や引き継いでほしいと思われる内容を聞き取り、慎重に作成を進めている
- 家庭で保護者が思われている困り感はそのままシートに反映するとともに、園で困っている内容については保護者と確認しながらシートに反映している
- 集団に入ると困り感のある子どもで、普通級しか考えていない保護者には移行支援シートの作成を薦めることが難しく、そのような保護者の子どもの情報こそが小学校が知っていてほしいケース
- 子どもの情報を先入観で知ってもらわない方がいいと考える保護者もいる

2 シートの活用について

- （小学校からの立場としては）就学相談が行われる７～８月頃に個別の教育支援計画などで子どもの情報が分かれば、保護者との就学相談の場で話がしやすい
- （公立幼稚園からの立場としては）子どもの様子は１年の中でも大きく変わるので、就学相談の時点での移行支援シートによる引継ぎは難しい
- 就学相談の時点で子どもの情報が共有できるのであれば、その資料の様式は異なってもいいが、年度末に正式な移行支援シートとしていただけるのであれば、小学校の個別の教育支援計画と同じ様式がよい
- 移行支援シートは支援内容を引き継ぐための１つのプロセスにすぎず、支援の内容を知るための第１段階の資料
- 小学校の個別の教育支援計画と同じ様式であれば中学校まで同じ様式で引き継げるので、共通認識を持ってつないでいけるのではないか

センターでの園訪問支援事業について（Ｒ７～）
【第１回専門部会 主な意見 反映版】

実施主体	（仮称）宇治市乳幼児教育・保育支援センター
事業名称等	園訪問支援事業
事業趣旨	全ての子どもがより豊かに園生活が送れるよう各施設を訪問し、園の先生を支援
対象	市内の全ての就学前施設
相談方法	○（申請不要の）定期巡回訪問であれば、（保護者に同意を得るほどのことではない程度の）その場で少し気になることや、保育の進め方などを見ていただきながら色々なことを話合いできるような相談。これに加え、特定の子どもに対する相談は、別途改めて依頼できる仕組み ○就学前施設の希望で月に１度の訪問や、３か月に１度の訪問など事前に訪問ペースを登録できる制度 ○申請（依頼）を受けて訪問する場合における手続の簡素化（保護者の同意が必要な相談であっても気軽に申請できるような仕組み） ○１日一緒に保育を見ていただくとともに、継続的にも見ていただけるなど、ケースによって訪問の種類を選択できる制度
相談内容	○できない部分だけに焦点を当てるのではなく、スモールステップ（段階的な工夫）について、就学前施設の職員とともに考える ○子どもの障害の特性だけではなく、その子ども自身が持っている育ち（ストーリー性）を考慮した上で、障害の特性に沿った手立てに加え、その子どもの意欲を尊重するような支援についての相談
訪問者	○子どもの育ちと発達の両方の視点を持っている専門職 ○子どもの育ちに寄り添い、スモールステップ（段階的な工夫）についてアドバイスできる専門職 ○療育施設の先生 ○動作に課題のある子どもには作業療法士、吃音のある子どもには言語聴覚士など、その子どもの特性に応じた職種の方
事業実施後	（保護者の同意が必要な相談の場合） センター → 所属園 → 保護者
事後支援	

※園訪問支援事業の具体的な内容については、上記の第１回専門部会での意見に加え、本日（第２回専門部会）の意見を踏まえ、決定

移行支援シートの統一化について 課題に対する対応策の検討

◎課題と感ずること

【渡す側】 公立幼稚園	①保護者に対し移行支援シートの活用を提案するタイミングが難しい ②移行支援シートは1枚ものになっているため、それだけでは子どもの情報を伝えきれない
【受け取る側】 小学校	③シートを受け取るタイミングが難しい ④年度末ではなく、7月頃から始まる就学相談の際にあらかじめ子どもの情報が分かれば相談を進めやすくなる ⑤「入学当初予想される姿」欄に記入されている姿とは異なる場合が多い（予想より学校生活に馴染めている場合もある）

（第1回専門部会追加配付資料より一部抜粋・加工）

◎本日のテーマ

「課題と感ずること」について、他の施設類型の部会員とともに意見交換しながら、改善を図る

【課題①】

「保護者に対し移行支援シートの活用を提案するタイミングが難しい」

（「子どもの情報を先入観で知ってもらわない方がいいと考える保護者もいる」）

↓

…第1回専門部会での意見

（対応策の例）

「保護者とのちょっとした言葉や会話の中から、困り感や引き継いでほしいと思われる内容を聞き取り、慎重に作成を進めている」…第1回専門部会での意見

（他に考えられる例）

○

○

【課題②】

「移行支援シートは1枚ものになっているため、それだけでは子どもの情報を伝えきれない」

↓

（対応策の例）

「小学校の先生とシートを見ながら情報共有を図る」…第1回専門部会追加配付資料より抜粋

（他に考えられる例）

○

○

【課題③】

「シートを受け取るタイミングが難しい」

（「卒業までにもっと伸びる子どももいるため、シートが完成するのは年度末」）

↓

…第1回専門部会での意見

（対応策の例）

-
-

【課題④】

「年度末ではなく、7月頃から始まる就学相談の際にあらかじめ子どもの情報が分かれば相談を進めやすくなる」

（「子どもの様子は1年の中でも大きく変わるので、就学相談の時点での移行支援シートによる引継ぎは難しい」）…第1回専門部会での意見

↓

（対応策の例）

-
-

【課題⑤】

「「入学当初予想される姿」欄に記入されている姿とは異なる場合が多い（予想より学校生活に馴染めている場合もある）」

（「小学校の集団教育の場では、就学前と同様の対応が困難な場合もある」）

↓

…第1回保幼小連携専門部会での意見

（対応策の例）

「就学前と同様の支援にこだわらず、環境の違いや子どもの成長等に合わせて、支援の方法を考えていく必要がある」…第1回専門部会追加配付資料より抜粋

（他に考えられる例）

-
-

※今後の予定

本日のご意見を踏まえ、移行支援シートの統一化に向けて準備を進めるとともに、今年度から新たに設置した研究・研修専門部会においても検討し、移行支援シートをテーマとした研究・研修の企画・実施につなげる